

令和 6 年度食品ロス削減推進表彰 審査委員会委員長 講評（令和 7 年 5 月 27 日更新）

消費者庁と環境省の合同では第 3 回目となる今回の「令和 6 年度食品ロス削減推進表彰」には合計 81 件の御応募をいただきました。まず始めに、御応募いただいた多くの皆様に、審査委員を代表して、心からお礼を申し上げます。

昨年に引き続き、「多様な主体」の皆様から様々な素晴らしい取組を御応募いただきました。全般的に内容がとても充実している印象があり、審査は難航を極めました。

その中で、貢献・成果、波及・将来性等について審査委員会で議論を行い、内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞 1 点、環境大臣賞 1 点、消費者庁長官賞 2 点、環境事務次官賞 2 点、消費者庁次長賞 2 点、審査委員会委員長賞 4 点、審査委員会特別賞 5 点を推薦し、受賞者の決定に至りました。今回は特に粒ぞろいでユニークな取組が多かったため、新たに消費者庁次長賞を設置するなど、特例として、例年より受賞者数を増やすこととなりました。

内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞に選ばれた「一般社団法人全国フードバンク推進協議会」は、全国の食品ロス削減に取り組む食品企業と食品が不足しているフードバンク団体のマッチングにより、2023 年度は 790 トンの食品提供を行うなど、2019 年度に比べて約 7 倍に達するほど拡大しており社会貢献レベルが非常に高い点や、フードバンク活動の規模拡大に必要な団体のネットワーク化が行われており、全国的に活動する先進事例となっている点が評価されました。

環境大臣賞に選ばれた「味の素株式会社」は、消費者の行動変容に向け、全国 47 都道府県等と連携した食品ロス削減に向けたレシピの開発や、流通企業等と連携した消費者への啓発企画等を実施されており、他業種を含む幅広い主体と協業しながら、大規模かつ多面的に食品ロス削減のキャンペーンに取り組まれている点から、社会への波及効果の高さが評価されました。

消費者庁長官賞には、以下の 2 点が選ばれました。

「株式会社セブーンイレブン・ジャパン」は、フランチャイズは規模も大きく調整が大変な中で協力関係を構築し、単なる安売りではない持続可能なアプローチとして期限間近商品の値下げ販売を実施した点や、消費者の気持ちに配慮した工夫により、社会的な広がりや消費者の行動変容へのつながりが期待できる点が評価されました。

「新潟県フードバンク連絡協議会」は、2023 年度の取扱い食品量が約 1,000 トンという規模の大きさや、ネットワークを県下でつくり、広い範囲をカバーしている点、さらに大規模な寄贈食品や災害備蓄の受け入れ可能な体制が評価されました。

環境事務次官賞には、以下の2点が選ばれました。

「特定非営利活動法人ふうどばんく東北 AGAIN」は、企業やフードドライブ協力団体、行政と連携して、大規模かつ安定的にフードドライブを実施する体制を整えた成果や、長年の活動の継続性等が評価されました。

「株式会社吉野家ホールディングス」は、スタートアップ企業と協業し、新しい技術を活用したアップサイクルによって、年間 180 トン生じていた食品ロス削減を実現、また、アップサイクルした食品の販売等の先進性に加え、レンタルによる機材導入による事業の継続性の確保も評価されました。

消費者庁次長賞には、以下の2点が選ばれました。

「群馬県富岡市立西小学校」は、給食センターの見学や流通在庫の存在から、バックヤードについて児童が学び、SDGs 献立の提案を実現している点や、流通業者の行動変容にもつながるなど、具体的かつ社会への波及効果の高さが評価されました。

「特定非営利活動法人フードバンクつばめ」は、様々な立場の人がネットワークをつくり、災害時の課題解決をはじめとして多くの社会問題に関わり、包括的に取組が行われている点が評価されました。

その他に、規格の問題で廃棄されてしまう果実を活用した商品の開発・販売によって消費者への訴求を行っている「キンビール株式会社 氷結チーム」、賞味期限切れによる廃棄が多いチルド麺の賞味期限を技術開発によって延長し、廃棄削減に取り組んだ「日清食品チルド株式会社」、インターネット上で受発注ができる仕組みを日本ではじめて開発し、民間企業が直接フードバンク活動を行っている「一般社団法人フードバンク協和」、全国食支援活動協力会と連携し、2023 年度には 50 トン近くの寄附を行った「株式会社ロッテ」の4点を審査委員会委員長賞に選びました。

また、値引きを環境問題と絡め、参加者が楽しみながら食品ロス削減に取り組める「もぐもぐチャレンジ」を展開し、消費者の行動変容を促している「株式会社アッシュェ」、SDGs の理念である「一人も取り残さない」を目標とし、更生保護分野を主な対象としフードバンクの活動を行っている「更生保護施設等支援協議会」、高いマッチング率を実現したサブスク型のフードシェアリングサービスの運営を行う「プラスフード事務局」、地域社会とつながりながら複数の取組によって食品ロス削減にアプローチした「株式会社ライフコーポレーション」の4点を審査委員会特別賞に選びました。

これら合計 16 点の受賞者以外にも数多くの興味深い取組を御応募いただきました。残念ながら今回は入賞には届かなかったわけですが、これからも取組を御継続いただき、ぜひ来年度以降、更に発展した形で御応募いただくことを期待しています。

食品ロス削減は、それぞれの皆様が、「他人事」ではなく「我が事」として捉え、「理解」するだけでなく仲間とともに「行動」することが重要です。今回の表彰を通じて、事業者と消費者双方の取組が広く共有されることで、食品ロス削減への取組の輪が広がり、更なる食品ロス削減につながることを期待しています。

令和 6 年度食品ロス削減推進表彰
審査委員会委員長 小林 富雄